



人権教育・啓発コーナー

ひまわり

(6)

阿南市の花「ひまわり」の花言葉は、「光輝く」です。人権について考え守っていくことが、まさに光り輝く阿南市づくりにつながります。人権教育・啓発コーナー「ひまわり」では、市民の皆様の人権に対する思いを掲載しています。

「柳島フィールド・スタディーから見てきたもの」 〜知ることは、愛することの始まり〜

柳島隣保館 館長 笹川 忠博さん

「柳島フィールド・スタディー」は、町内の施設等、12カ所を徒歩で回りながら説明を聞き、先人たちが取り組んだ運動や知恵や工夫、その裏にある熱い思いを感じていただくフィールド・ワークです。年間8〜10回ほど行い、約140人の参加があります。各方面の人にお世話になり、5年を迎えようとしています。

この間を振り返り、私自身、そして私の周りも変わってきたと感じました。「フィールド・スタディー」に関わった人たちが、先人たちの行動から学び、人権尊重の大切さや人と人との絆の大切さを感じているように思います。また、子どもの教育には、学校・保護者・地域の連携が大切といわれています。学校の教職員や高学年の子どもを

中心に「フィールド・スタディー」に参加し、自分たちで意見を出し合い、人権学習を行い、人権の地域教材として活用しています。

地元消防組織の話で、町内に消防施設が無かった明治時代の頃、たびたび起こる火災に対して、町内の人たち全員でわら細工などの内職をし、現在のお金で600万円もする消防ポンプを購入しました。授業でその話を聞き、「わら細工ってどんなもの？自分もやってみたい」との意見が出てきたことがありました。その時は、地元の方にお願ひし、わら細工の体験を学校の体育館で行いました。縄を編み、むしろ・ふごなどを作り、大変苦労したことを実感していました。

私も、ゲスト・ティーチャーとして参

加し、消防組のテーマで学習を行った時、子どもたちから「町民でつくった消防施設を町の施設として認めてほしいという運動を起こし、費用は自分たちで負担すると書いた誓約書まで出し、公設となった。なぜそこまでして公設にこだわったのか」という疑問ができました。しばらくの沈黙後、ある子がこう発言しました。「公設だと消防組長が亡くなっても、組織は続くのではないのでしょうか」。この発言に、私は驚かされました。子どもたちは当時のことに思いを巡らし、先人たちが、先のことを見据えた行動をしていたのではないかと考えたと思います。問題を追求する事の大切さを、私も共に学んだ時間であつたと思います。

水源地（簡易水道）の授業では、当時のことをもと知りたいたと、水源地が出来るまでの経緯を知る地域の方を紹介し、来ていただきました。地域の人の思いや願ひに触れ、事実をもとに考える事ができていました。そのほかにも、平和の学習では、戦争体験のある地元出身のおじいちゃんを紹介し、命の尊さや平和の大切さについて、意欲的な学習ができていたと聞いています。私も人権学習に参加するたびに、子どもたちの自由な発想に驚かされ、私自身子どもたちから数多くの事を学んでいます。

また、町の民話「おっぱしよ地蔵」の祭りが復活したという、うれしいこ

ともありました。これも「フィールド・スタディー」の広がりからできたものと思います。今年も地元の小学校の4年生がオリジナルの紙芝居をし、祭りを盛り上げてくれました。結果、参加者も増加したと聞きました。

地元の人権ふれあい子ども会の子どもたちも「フィールド・スタディー」に参加し、何か協力できないかと考えてくれました。小学生は「フィールド・スタディー」の12カ所の看板を手づくりし、中学生は「柳島フィールド・スタディー紹介DVD」を自主製作してくれました。このような活動を通して、生まれ育った地域に愛着心が芽生えているように思います。

先人たちは、あらゆる人権問題に対応する手法を私たちに教えてくれている気がします。人権とは「命」に関わる大切な問題であり、日常生活が全て人権に関わっています。今後も「フィールド・スタディー」を通して、自分自身の人権はもとより、すべての人の人権を尊重する町づくりにつなげていきたいと思っています。

※「柳島フィールド・スタディー」は柳島隣保館（☎22-3260）で無料で行っています。

問い合わせは

人権・男女参画課

（☎22-3094）へ

